

定住支援センターの整備に向けて

7月7日(水)町民センターで「豊富町まちづくり協議会」が開催されました。「豊富町まちづくり協議会」では、重点検討事項とされている中学校跡地への「定住支援センター」(保健、福祉、多世代交流を目的とした複合施設)の整備について議論されました。住民、関係団体、専門家など15名のメンバーで構成された協議会各委員には工藤町長より委嘱状が交付され、その後、北海道大学大学院工学研究院瀬戸口剛教授を座長に選出し、次のとおりおこなわれましたのでお知らせします。

協議会設置の趣旨説明(事務局)

第4次豊富町まちづくり計画を受けて策定した都市再生整備計画を具体化するにあたり、住民、関係団体、専門家、行政など多様な主体が参画し、協働により進めることを目的として協議会を設置しました。

座長選出

北海道大学大学院工学研究院瀬戸口剛教授が協議会の座長に選出されました。

定住支援センターにかかる検討経過(事務局)

地域づくり住民会議を設置し、都市再生整備計画の策定の中で、定住支援センターの整備について検討し

てきました。保健センターと老朽化した公共施設を統合して、行政サービス拠点施設(定住支援センター)として整備します。施設を統合することにより、管理運営の効率化が図られると共に、多世代がふれあえる場を提供できます。建設地は、役場との一体性、病院、保育園などと連携する上で中学校跡地を適地としています。

が利用している。

●わくわくエッグ(旭川市)

屋内の遊戯広場。子ども連れの親子で市外からも集まり人気。

●美幌町しゃきつとプラザ

各種検診や健康づくりなどを目的とした総合的な保健健康施設。プール、ジムなどは高齢者が活発に利用している。

●コミュニティレストラン「地域食堂きずな」(石狩市)

高齢者が気軽に集まり、食事をしながら交流する施設。シェフは地域住民が日替わりで担当している。

●ニセコ町学習交流センター「あそぶつく」

地域住民が計画段階から参加して造られた図書館。利用者側の自主的な運営管理で成功。行政にはできない柔軟な図書管理と運営が可能。

○その他

・子育て支援施設はどこも賑わっ

ている。子どもは最強のコミュニ

ティ再生ツール。子育て世帯の集いが高齢者・多世代の集いを誘導する。

・利用者の視点からの施設整備と運営が重要。利用者が施設整備と運営に参画すると成功する。

・高齢者サロンは、サークルの展示・販売など生きがいにつながるものにニーズが高い。サービスを受ける高齢者からサービスを提供する高齢者へ。高齢者の技能を活かす。

以上のとおり、関連施設などの事例が述べられました。

関連施設の事例紹介

(道立総合研究機構 北方建築総合研究所 松村博文)

松村委員より、道内の市町村の施設の事例について次のとおり紹介がありましたのでお知らせします。

●釧路市こども遊学館の屋内砂場

ガラス張りの屋内砂場は、明るく衛生的で通年で利用ができ、たくさんのお子さん連れのお母



事例紹介の様子

町内関係施設の 利用状況調査の報告

事務局から、町内の既存施設（中央会館、母子健康センター、福祉センター、老人福祉センター、町民センター、共同福祉施設）について、建物の現状や利用状況の調査結果について、次のとおり説明をおこないました。

- ・中央会館、母子健康センター、福祉センター、老人福祉センターは、老朽化が進み、暖房、修繕などの維持管理費が高んでいる。
- ・必要な機能を満たしていない施設もある。

定住支援センターの 整備に係る自由討論

定住支援センターの整備において、各委員から意見を述べていただきました。主な意見は次のとおりです。

- ・町の公共施設は古く機能的に不都合。施設を統合し機能を集約することが必要。
- ・施設を複合化することによって、1+1+3にするということがポイント。
- ・施設を統合することにより、効率的な運営管理だけでなく、世代間の交流が生まれる。

・カラオケなど高齢者が集まる場所はあるが、子どもと一緒に集まる場所がない。高齢者と子どもが交流できる仕掛けづくりが鍵。

- ・他のまちの図書館では、雑誌や新聞の閲覧、DVDの貸し出しなどをおこなっている。本の読み聞かせは高齢者と子どもの対話、交流が生まれる重要なイベントである。
- ・図書室には、リースペースを設け、自由に読書できる空間が必要。

活発な意見が述べられた自由討論



- ・町民センターのホールで合唱団の公演を開催したが、照明、音響設備が不十分で、多額の経費がかかった。設備が整った施設が必要。
- ・大規模な行事や音の出る催しを町民センターでおこない、小規模なものは定住支援センターでおこなうなど、施設で使い分けをおこなうことが必要。

・高齢者はケアの充実している場所に住みたいと思っている。市街地にあつた方がニーズは高い。

【作業部会での意見】

- ・障害を持つている方が気軽に立ち寄れる施設があると良い。
- ・小さい子どもとその親が集う場所がない。衛生的で、年間を通して利用できる場所が欲しい。
- ・中高生の遊ぶ場所がない。明るく子ども達が入りやすい施設の整備を優先して欲しい。
- ・年をとってからいろいろな世帯の人と交わりたい。そういう施設が欲しい。
- ・図書館は狭く貸し出しが中心。広い施設が街なかになれば、多くの用途に利用ができる。
- ・図書館は奥まっついで入りづらく狭い。仕事帰りでは時間が合わない。入りやすく行きやすい施設を。
- ・町民センターのラウンジに学校帰りの中学生が来ている。中高生の集まれる場所が必要。
- ・車がないと町民センターは不便。などの意見が述べられました。

シンポジウム開催のお知らせと ワークショップ参加者の募集

ワークショップ参加者の募集

シンポジウムのテーマは「住みたい、住み続けたいまち ～あつたらいいな こんな施設～」
現在、中学校跡地で「定住支援センター」（保健、福祉、多世代交流を目的とした複合施設）の整備を検討しています。
「こんな施設があつたら、ずっと豊富町で住んでいたい！」と思えるような施設づくりをみんなで考えませんか。
ワークショップの参加者を募集しています。子育て世代のお父さん・お母さん、中学生、高校生、高齢者、勤労者、主婦の方、いろいろな世代の方の参加をお待ちしております。
参加申し込みまたは問い合わせは、役場建設課土木係まで。 ☎82-11001 内線152番

記

日時：平成22年9月4日（土）午後1時～
場所：町民センター大ホール
テーマ：「住みたい、住み続けたいまち ～あつたらいいな こんな施設～」
内容：○基調講演 午後1時～午後2時15分
・道立総合研究機構北方建築総合研究所 松村 博文
演題「交流施設の『だじ』」
北海道大学大学院工学研究院教授 瀬戸口 剛
○ワークショップ 午後2時30分～午後5時
テーマ：「あつたらいいな こんな施設！」